

2-3 北信州心臓病地域連携包括ケア推進協議会の6年間の取り組み

田中千恵子、渡辺 徳、高野千恵 (JA 長野厚生連北信総合病院)、
長瀬有紀 (長野県北信保健福祉事務所)

キーワード：心不全、在宅医療、多職種連携、包括支援

要旨：北信州地域は高齢化率が高く、独居の高齢者世帯も多い。慢性心不全を持った生活者はその増悪により入退院を繰り返すことがある。心不全の経過は、食事・内服管理などの生活面の管理により増悪が左右される。心臓病を持った生活者が安定した在宅生活を維持していく為に、病院とかかりつけ医が連携し治療を行う地域連携パスを、2009年から運用開始した。更に、多職種が関わる医療連携により生活面から支える仕組みと、介護との連携が課題となり、2012年に北信州心臓病地域連携包括ケア推進協議会を設立し、2次医療圏の多職種、多業種が顔の見える関係をもって協働・連携できる地域包括ケアシステム構築に取り組んできた。設立後6年間の事業経過を報告する。

A. 事業

北信州地域は高齢化率が高く、心臓病に罹患する生活者が多く、入退院を繰り返すことがある。しかし、多くの生活者は可能な限り住み慣れた場所で、自分らしく生活を維持したいと願っている。そこで保健・医療・福祉・介護の多職種が協働・連携し、心不全に罹患している生活者の支援を行っている。また、従事者（支援者）の知識の向上を目指し取り組んでいる。

B. 事業運営経過(協議会設立までの経緯)

2008年 地域医師会と心不全地域連携パス開発

2009年 心不全パス稼働

2010年 報告会(院内外関係者)

2011年 報告会 県健康福祉部関係職員と地域連携ネットワーク化について協議

2012年 協議会設立に向け準備

3月 地域包括支援に向けて保健、医療、福祉のネットワークづくり(多職種の顔の見える関係づくり)のため各市町村、福祉関係機関(20機関)へ訪問し趣旨説明

4月 「北信州心臓病地域連携包括ケア推進協議会」仮称 設立の素案準備

2012年6月12日 第1回「北信州心臓病地域連携包括ケア推進協議会」を開催し正式に発足。各市町村からの負担金で運営する。

C. 事業内容

1. 協議会の構成員

病院	北信総合病院、飯山赤十字病院 佐藤病院
医療関係 団体	医師会、歯科医師会、薬剤師会、 栄養士会、訪問看護ステーション
福祉関係 団体	居宅介護支援事業所、介護施設 居宅介護サービス事業所
行政機関	北信保健福祉事務所、市町村(管内 6市町村)北信広域連合、消防本部
食育ボラ ンティア	食生活改善推進員

2. 部会の設置と活動状況

「地域連携パス部会」「食生活改善部会」「教育部会」の3部会を設置

(1)「地域連携パス部会」：病院から在宅生活への円滑なケアの継続

① 心不全ノートの活用・症例報告会開催

独居、老々世帯等で入退院を繰り返している生活者では心不全の増悪を早期に把握するために、多職種間での情報共有のツールとしてノートの活用を推進した。また、症例を通して多職種でどのように活用したか報告会を行い検証した。(1回/年)

② 従事者研修会(勉強会)の開催(1回/年)

③ 消防署との連携

年	テーマ	参加(人)
2013	心不全について	136
2014	心臓リハビリテーション	91
2015	心疾患の薬剤管理	100
2016	高齢者の栄養改善・食事支援に関する市の取り組み	73
2017	心不全の緩和ケア	82
2018	歯周病は万病のもと	114

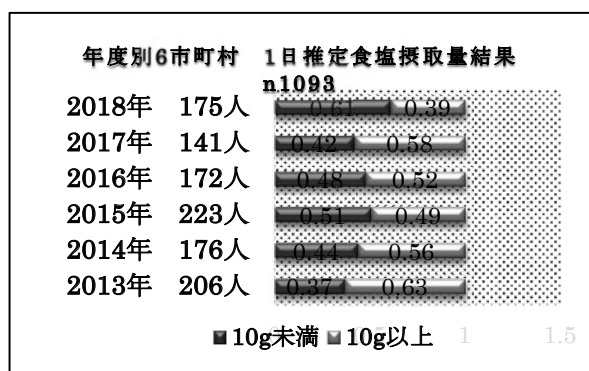
(2) 「食生活改善部会」：心臓病を持った生活者の栄養改善と予防

① 心不全パス運用者への栄養指導の実施

(北信総合病院定期受診時)

② 地域住民へ減塩の啓発 (6回/年)

6市町村のイベントに参加し、塩分チェックシート・尿中食塩濃度測定・試食・食品展示・管理栄養士による結果説明とアドバイス。リーフレットを作成し配布した。



(3) 「教育部会」：保健・医療・福祉・介護従事者の知識の向上と住民への啓発

① フォーラム (関係者研修会) の開催 (1回/年) エキスパートの講師を招き開催した。

年	テーマ	参加(人)
2012	「SALT-CNSCIOUS 町ぐるみの減塩環境の作り方」 日下美穂氏	176
2013	「柏プロジェクト在宅医療の現場からの報告と医療連携」 長瀬慈村氏	111
2014	「超高齢者の独歩退院をめざした病院づくり」 和泉徹氏	108
2015	「高齢者の虚弱化の予防とその社会システム」 新開省二氏	107

2016	「地域包括ケアにおける薬局・薬剤師の役割」 狭間研至氏	127
2017	「心血管病発症・再発予防のための地域連携疾病管理」 東條美奈子氏	114
2018	「地域で支える心不全の緩和ケア」 大石醜悟氏	91

② 6市町村における市民公開講演会開催

減塩をキーワードに講演「減塩をしたくなる話」と減塩料理デモンストレーション、試食「旬の味をもっと美味しく！」を行った。

D. 問題点・課題

1. 医療・介護の連携の充実

病診連携機関では情報共有できているが、心不全ノートを活用した医療と介護関係機関との医療情報は共有できていないことが症例報告会でわかり、今後の課題となった。

2. 減塩の普及啓発と環境整備

6市町村での減塩の啓発を6年間で1093人実施した。高齢者世帯・独居も多く、商業店舗とも連携し食環境を整えていくことも必要。

E. まとめ

研修会をはじめ多職種で部会を中心に職種の枠を超え協働・連携し活動する中で顔の見える関係が深まり、地域包括ケアの体制づくりができたと考える。今後、医療と介護に関わる多職種間で最新の医療情報を共有し、その生活者に最善のケア、在宅支援が提供できることが重要と考える。地域へ出向いての減塩活動でこの地域の食生活の特徴を知ることができた。今後は高齢者の食生活についても地域全体で取り組んでいく必要があると考える。医療・行政・介護関係者が一体となつての活動は、病気を持った生活者の支援や地域住民の健康維持に大きな力になる。今後も本協議会をさらに発展させ、在宅支援に取り組んでいきたい。

F. 利益相反：利益相反なし

(謝辞) 本協議会事業に協力して頂いている、病院・医療・福祉・行政関係、食育ボランティアの皆様へ深謝申し上げます。